

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100099		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街焼津		
所在地	静岡県焼津市石津188		
自己評価作成日	令和1年12月2日	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が季節を感じいつも笑顔でいられるよう、また毎日安心して暮らしていけるような環境作りをしながら、利用者様の思いを大切にサービスをしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&jigyosvCd=2295100099-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年12月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設11年、ホーム長は着任5年と、堅固な体制を築くに十分な月日を利用者、家族、職員とで力を併せ紡いできた事業所です。その集大成として本年9月には、町内会長や福祉委員からの依頼により、公民館でおこなわれている地域ふれあいサロン『いかずい北川原サロン』において、管理者と介護支援専門員が介護相談を引き受けています。「認定を受けるにはどうしたらいいか」「足が痛くて歩けない、良い杖はないか」「事業所のサービス内容」等、介護のいろはを伝授して、地域に貢献できたとの充実した日を実践しています。今後も要望があれば積極的に応えていきたいと考えており、地域密着型事業所のお手本を示しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が安心して、生活できるようにスタッフみんなで考えた理念(笑顔が絶えない)を、フロアに掲示して、利用者様一人一人の思いを大切にしながら、実践につなげています。	毎月のミーティングでも理念「笑顔が絶えない」を実践できているか管理者から問いかけています。また利用者が立ち上がって「いらっしゃい」と出迎えてくれる様子からも、安寧の暮らしがあることが伝わります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事(お祭り・清掃活動・避難訓練等)に参加して地域と交流をしています。利用者様になるべく地域の方たちと触れ合いが増える様、近くの公園へ散歩に出かけるようにしています。	地域の秋祭りにはご祝儀を届け、また町内会の子どもたちは30名余で「焼津ラブソティー」を踊ってくれます。清掃活動では事業所駐車場周辺の草取りを毎年継続し、本年度は公民館での介護相談を担当しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の方の対応等を話合っています。また、今年度から発足した焼津市港地区介護事業者連絡会などに参加、理解を得られるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催しています。自治会役員・民生委員・市役所・地域包括支援センター職員・家族代表者等の参加があります。現状報告や活動報告を行ったり、意見交換等を行っています。	家族は仕事や高齢化で出席がないものの、行政や地域のメンバーを集め、併設事業所との合同での隔月開催が叶っています。町内会長からは地域行事の情報が届いており、運営に役立つ場となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の方が、運営推進会議に参加時に、情報交換ができています。都度、連絡、相談、報告をしています。	運営推進会議では市から「地域との防災関係を築いて」「排泄用品のストックの協力あればありがたい」「地域の防災拠点になってほしい」との要望があがっており、地域からの期待に沿えるべく準備を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を行い、身体拘束委員会を2ヶ月ごと開催、拘束をしないケア方法を常に検討し、実践していますが、グループホームは2階に立地しており、入口付近に階段があるので、危険防止のため施錠はしています。	身体拘束廃止に向けた取り組みについては、「指針と整合性がない」との指摘を受けては至っていますが、速やかに是正をおこなっています。また介護用ロボット(体動、呼吸数モニター)の導入は、見守り機器として行政から容認され、活躍しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて年1回学ぶようにし、虐待防止に努めています。また、常にご利用者様の身体の観察を行い、早期の異常発見に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて年1回学ぶようにし、利用者様の権利擁護に努めています。過去、後見人制度を利用されている利用者様がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い理解を得られるよう努力しています。また、不安や疑問点があれば後日でも、その都度伺うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時等に、その都度意見を伺うようにしており、申し送りノートへも記載し、共有しています。また、運営推進会議の時にも話し合うようにしています。	年に一度家族会を開催しており、中には複数名来所する家族もあり、賑やかにおやつを食べビンゴゲームを楽しんでいます。また職員からは日頃の様子を伝え、家族が心おきなく想いを吐露する場となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案はその都度聞き、反映するようにしています。月に1度ミーティングも開いており、話し合いを行っています。	毎月のミーティングでは意見が出過ぎてまとまらないほど、活況を呈しています。月に一度は行事をおこなうと決め、月毎の担当制なことも職員意欲を高めていて、清掃表や外気浴・気分転換表を作成するに実っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標を正職員を考慮してもらい年4回面談を行い進捗状況の確認、アドバイスをしています。常に職員に声を掛け、働きやすい職場環境を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で行われる施設研修に参加して、研修を受けた職員が講師になり、他の職員に講義を行っています。介護福祉士などの資格を習得するように声を掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度、市内でグループホームの連絡会があるので参加し、意見交換しています。今年度から発足した焼津市港地区介護事業者連絡会に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設利用前に本人と面談をして、困っていること・不安な事を聞きながら、利用者様が安心して生活出来るように、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設利用前に家族と面談をして、今の現状・不安な事・要望等を聞き、サービスを開始しています。施設での生活の様子を家族に連絡して、家族との関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族に合って良く話し合いを行い、施設内にてCMを中心に、今後の支援について検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒に行い、意欲を持った生活をして頂けるよう、コミュニケーションを取りながら信頼関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた時や、お便りで様子を伝え、情報を共有するようにしています。また、必要に応じて電話にて報告・意見を聞くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には、面会や外出する機会を多く持って頂けるようお願いしています。知人等にも気軽に来て頂けるようにご家族に伝えています。	面会時間は9～20時としており、週末にはキーパーソン、親戚、孫などが気兼ねなく訪れており、多い時は団体で訪問する家族もいます。「少しでも思い出してくれたら…」と、以前から通う美容室を継続する人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の間に入り、うまくコミュニケーションがとれるように支援しています。レク等も皆で出来るように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の近況を視察にいたり、電話等で確認している。相談等があれば、伺うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、希望・意向の把握に努めています。ご本人から聞き取りが困難な場合は、ご家族も交えて検討しています。	会話もままならず、不穏な状態が続く人には、本人の表情観察、傾聴を強いて努め、申し送りを密におこない、ミーティングやモニタリングシートで振返り、少しでも穏やかな表情に変容することが励みとなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・前介護支援専門員から情報を得て、把握出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを取りながら、日々バイタチェックし、体操や入浴介助しながら身体観察を行っています。全員で共有できるように、毎回ミーティング時情報交換しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング、モニタリングを月1回行い本人の現状を分析して介護計画の原案を作り、本人御家族、必要な関係者に意見を頂き介護計画を作成しています。	計画作成担当者を置き、併設事業所と兼務する介護支援専門員が記録や職員から情報収集して計画立案し、モニタリングは3ヶ月ごとにおこなっています。サービス担当者会議は家族も加わって実施しています。	介護計画に沿ったサービスが確実に実践されるよう、職員指導の仕組み等何らかの手だてが講じられることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録の記入は毎日実践しており、身体状態・行動に異変があれば、その都度記入し、申し送り時にも報告、対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様のニーズに合わせて、出来るだけの柔軟な支援やサービスが出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事を回覧板・運営推進会議などから情報収集して参加したり、傾聴ボランティアさんの方に、月1回来てもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を、なるべくご家族にお願いしています。医師への質問等があればご家族へ伝え、必要があれば同行もしています。現在、往診への変更を希望されている家族もいます。	全員がかかりつけ医を継続し、かつ家族が受診支援しており、普段の様子は勤務の看護師からメモ書きで医師に渡っています。戻ってくると、家族の口頭での結果報告があり、支援記録に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	様子を申し送りを行い、申し送りノートにも記載し共有しています。また、必要に応じて処置をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には、詳しい情報を提供するように努めています。退院に際しては、病院関係者・ご家族・職員と相談し、ご利用者様にとって一番いい方法を考えながら行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、ご家族と話し合い、ご利用者様・ご家族の意向に添えるように努力しています。	契約時は看取りの指針に沿って説明し、重度化が予想される場合は話し合いの場を持ち方向性を決めることとしていますが、管理者が着任して過去5年間看取りの実績はなく、回復が見込まれる状態として病院への救急搬送が主となっている状況です。	終末期をどう迎えたいか、延命についての意思確認書の作成が検討されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時に話し合ったり、実際に消防署指導で、心臓マッサージの訓練を行ったり、施設研修等で行う救命講習等にも参加しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内で訓練を行っており、地域の避難訓練にも参加しています。	昨年は消防署の立合いのもと、煙を避けて姿勢を低くして避難することを学んでいます。本年は12月、1月の実施を予定、また地域からは夜間訓練への参加要請があり、管理者が出向き協力体制の第1歩としています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーについて、内部研修を行い徹底しています。プライベートなことに関しては、なるべく耳元で話すようにしています。無理強いする事無く、出来る事はやっていただくようにしています。	倫理及び法令遵守、プライバシー保護の取組みに関する研修をおこなうとともに、「自分に置き換えて、知られたくない、やってほしくないことを介護現場でも気をつけてほしい」と管理者から都度伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションをしっかりと取り、利用者様の思いを大切にしながら、自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせられるように努力しています。外出・散歩・体操・レクなどの際はご本人の意向を聞き、無理のないように行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、朝は洗面所にブラシを用意して、ご自分で鏡を見ながらブラッシングしてもらっています。洋服もご本人とその日の気分に合わせて決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に買い物に出掛け、おやつを買ったり、料理本を一緒に見ながらメニューを考えたり、畑で作った野菜と一緒に収穫し、皮むき等してもらったり、テーブル拭き・食器拭きなど、出来る事を手伝ってもらっています。	業者から毎日湯煎タイプのもものが配達されています。畑で採れた野菜でメニューを一緒に考えたり、誕生日にはリクエストに応じており、食事中には利用者発信の気遣いや優しさもあってゆったりとした食事風景です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く摂取出来るように配慮しています。食事量・水分量を一覧にて確認できるようにし、対応しています。体調が良くない時は、お粥にしたり、水分等にも、とろみをつけて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを実施。口腔ケア時、出来るところまでご自分でやって頂き、その後は確認しながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄一覧表をチェックし、早めの声掛けを行い誘導しています。全介助の方も、職員2人介助で日中は、トイレ誘導しています。	日中は「トイレで」を基本として、2時間おきの誘導で失敗を減らし、また夜間は吸収量の高いパッドで安眠優先として、トイレの声かけが必要な人には「4時間は熟睡できるように」と、生活のリズムに配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量の把握・排泄チェックを行い、リハビリ体操や散歩にて身体を動かすようにしています。また、毎朝ヨーグルト・日中は牛乳を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、職員がチェック表を見て2・3日おきに入浴できるように支援しています。入浴剤も入れて気持ち良く入ってもらえるようにしています。	週2回を目安としてはいますが、希望に沿って柔軟に対応、回数を増やしている人もいます。一人ひとり入れ替える清潔な湯船で歌を歌い出したり、昔話に花が咲いたり、職員と一対一を楽しむ時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自由に休めるようにし、また夜間も一人ひとりの生活習慣に合わせて、照明・室温等にも気を付け、ゆっくり安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルを作成し、職員がいつでも確認できるようにしています。受診の際、薬の変更時は送りノートにも記載し、職員にも確認するように伝えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食前・後の準備や片づけ、食材の買い出しや、洗濯干し・たたみ等一人ひとりに合った役割が提供出来るようにしています。また、おやつを一緒に作ったり、散歩に出掛けたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて遠足・イベントをやったりしています利用者様の希望で、かつば寿司他に外食に出掛けたり、衣類の購入を一緒に出掛けたりします。	散歩の機会が減って、同じ人になりがちだったことを是正し、昨年度より「外気浴、気分転換表」を作成して均等に散歩に出かけられるようにしており、理念「笑顔が絶えない」を実現へとつなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、買い物に出掛け本人の希望する物を買ひ、お金を払う支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話はかける事が出来ます。プライバシーを守る為に部屋を提供するようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテレビの位置を、ご利用者様が利用しやすいように工夫し、居心地の良い空間作りに努めています。また、季節を感じられるような掲示物を飾ったり、朝は窓を開け、外の空気を取り入れたり、夏は日差しが眩しくないように、少しカーテンを閉めたりしています。	フロアはクリスマスツリーとクリスマスのタペストリーに彩られていて、季節感を満喫できます。今年はレースカーテンを取り換え、朝礼前後に掃き掃除、夜間フロアのモップ掛け、噴霧器には酸性水を入れて予防に徹底し、この5年間感染症は出ていません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は自由に好きな場所で過ごして頂けるように、特に場所を決めず、また一人でも休めるよう色々な空間を活用し工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、今まで使っていた家具・寝具等を用意していただき、居心地良く安心して過ごせるよう配慮しています。	各居室には衣類収納のためのタンスが置かれたり、書くことが趣味なのか手帳と筆記用具、レクリエーションでの作品が飾られています。また「ベッドが苦手」という人には畳を敷いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限りご本人の意思を尊重し、できる事はなるべくご自分でやって頂けるように、支援しています。		